



# Tokyo Union Theological Seminary



東京神學大學

# 地の果てに至るまで、わたし

神さまはキリスト者の中から、教会のわざに奉仕する伝道者を召し出そうとされます。それは2000年前から続いてきた「福音」「教会」「伝道」「召命」「献身」……という大きな働きへの参与の呼びかけです。

この招きに応え、神学を修め、神さまの働きに仕え続けることは容易なことではありません。しかしながら伝道者たちは、その喜びについて語る時、飽くことを知りません。

「人生で何をなすべきか」「与えられた命をどう生きるか」と思い悩むとき、ときに静まって、あなたに呼びかける御声に耳を傾けてみましょう。神さまの御心は、しばしば私たちの思いを超えて響きます。

教会

キリスト者  
教会の群れ

福音という喜びの知らせを受けて

# の証人となる 使徒言行録1章8節

献身……

召命

伝道

教会

福音

献身するものが  
新たに生まれ神学校へ……

やがて、その  
から召命を受けて

福音を多くの人に  
告知らせる

卒業後は教会に  
遣わされて

教会奉仕、伝道実習で  
伝道のわざを身につけ

神学校では召命を問いつつ  
神学の研鑽に励み

キリストに仕える  
献身を決意する

復活の主イエスを告知らせる  
召命を与えられ

となり  
に加わり

## Contents

学長からのメッセージ……………	4
卒業生インタビュー……………	6
学びの特徴／カリキュラム……………	8
専門分野の紹介／教員紹介……………	10
キャンパスライフ……………	14
(東神大の1年／教授編／学生編)	
東京神学大学のプロフィール……………	19
(東神大生のプロフィール／大学の諸活動)	

# 「福音の真理」を伝える 伝道者を、いまの世に



## 東京神学大学開校までの歩み



東京神学社の学生と教師

- 1859(安政6)年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を開始。
- 1872(明治5)年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立された。
- 1873(明治6)年 宣教師のS.ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開講。1877年「東京一致神学校」(のちの明治学院)開校。
- 1904(明治37)年 「東京神学社」が牧師・植村正久によって設立される。
- 1930(昭和5)年 本学の前身となる「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」はここに合流する。
- 1941(昭和16)年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団が設立される。
- 1943(昭和18)年 教派ごとに分かれていた神学校が「日本東部神学校」「日本西部神学校」「日本女子神学校」の3校に統合され、さらに1944(昭和19)年、この3校が合流して「日本基督教神学専門学校」となる。
- 1945(昭和20)年 敗戦
- 1949(昭和24)年 日本基督教団立の伝道者養成機関として新制大学「東京神学大学」を開校。

東京神学大学は、神学部・神学科の単科大学です。その意味で東京神学大学は、現代の社会に主イエス・キリストの福音を伝えるためひたすら伝道者・牧師を養成することにかけた大学です。そのために神学教育と研究を集中的に行っています。

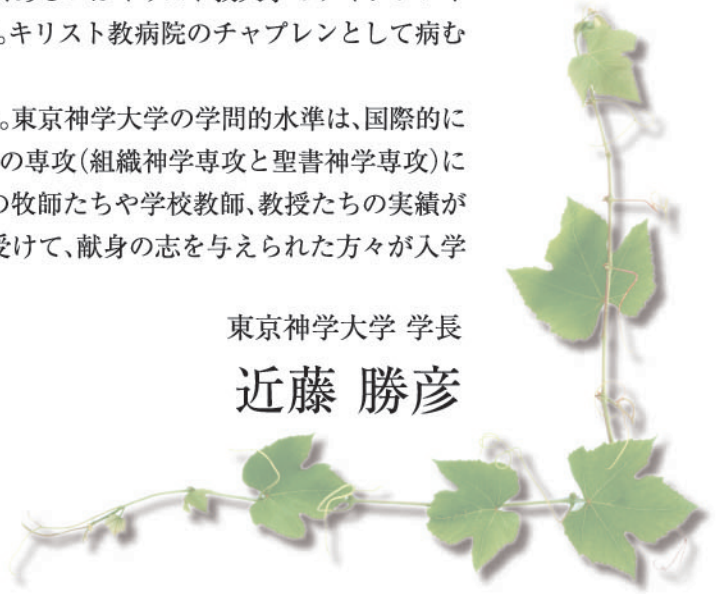
東日本大震災では多くの人命を失い、甚大な数の方々が言いようもない悲惨な経験をいたしました。心からお見舞い申し上げます。被災地の方々とその地に立つ教会のためにも祈ります。

いま、私たち誰もが、心の底で真実の救いや支えを必要としています。人生を生きる真の力、そして希望はどこから来るのでしょうか。人と人とのつながりを支えてくれるのは何でしょうか。世界はどこに向かって進むのでしょうか。そして、その救いはあるのでしょうか。これらの問いはみな「真の福音」を求める問いではないかと思えます。こうした問いに答えて、福音を生き生きと語り伝える伝道者がいなければなりません。その働きのために、皆さんの献身を必要としています。

東京神学大学の卒業生は、全国の諸教会に牧師として遣わされ、それぞれの地域社会で福音を伝えています。キリスト教学校の聖書科教師として、あるいはキリスト教大学のチャプレンや教授として青年たちを指導している人たちもいます。キリスト教病院のチャプレンとして病む人を支えている人もいます。

こうした奉仕のためには学問的な訓練が必要です。東京神学大学の学問的水準は、国際的にどこに出してもひけをとるものではありません。二つの専攻(組織神学専攻と聖書神学専攻)において博士の学位を出していますが、さらに卒業生の牧師たちや学校教師、教授たちの実績がこの大学の水準の高さをよく示しています。洗礼を受けて、献身の志を与えられた方々が入学してこられるのをお待ちしております。

東京神学大学 学長  
近藤 勝彦



## 日本伝道の歩みと東京神学大学

教授 棚村 重行(歴史神学)

「日本の教会と神学校はなぜ合同したがるのですか？」これは数年前本学を訪問した韓国の一神学大学の学生たちが、本学に合流した多様な旧教派神学校の系統図を見て発した驚きの問いです。一つの答えは様々な教会合同運動(エキュメニズム)を主動機とし、教派を建設する動機も絡み織りなすドラマ——これが歴史的に見た日本伝道の脚本といえましょう。

三段跳び式に言えば、ホップ段階の明治初期、信仰復興の福音を伝えた日本基督公会という19世紀の合同運動が、教派形成と対抗して移植されました。宣教師ブラウンの合同神学塾は本学の遠く遙かなる一源流です。

ステップ段階は、20世紀エキュメニズムの日本基督教連盟をエンジンとした教派の協力合同運動の時期です。この頃二つの神学教育機関、東京神学社と明治学院神学部が合同し、日本神学校が誕生しました(1930年)。

このステップの上に、第二次世界大戦時の国家による宗教団体法の超突風も加わり、当時のプロテスタント30余派は多教派間合同教会、日本基督教団へジャンプしました(1941年)。この教団の教職養成校、日本基督教神学専門学校(1944年)を経て、戦後の1949年に新制東京神学大学が誕生したわけです。

以来、聖書と歴史的な信仰告白の資産を継承し、「教団信仰告白」を規準とした、健全な福音の伝道と諸教会に開かれた神学教育、教団形成の更なるジャンプに努める神学大学——これが本学の基本姿勢です。



かつて使われていたパンフレット

日本基督教団 上尾使徒教会 主任牧師

## 松本のぞみ(まつもとのぞみ)

### 松本牧師のこれまで

- ▶青森県生まれ。牧師家庭で育ち、3歳のとき、関東教区・原市教会で幼児洗礼を受け、中学3年生で信仰告白。女子聖学院短期大学児童教育学科卒業後、キリスト教幼稚園勤務。
- ▶1994年 東京神学大学2年次編入学。
- ▶1999年 東京神学大学大学院修了。遠州栄光教会、使徒教会に赴任。
- ▶2007年 上尾使徒教会牧師(主任担任教師)着任。「教団新報」編集委員、全国教会青年同盟理事を務める。



## 主の召命を求めて、祈り続けることが大切。 あなたを、神さまが呼んでいます。

**神** 学を学びたいという思いを起こされたのは、幼稚園教諭になって5年ほど経ったことです。それまでは「幼児教育の場でキリストを伝えることが私の召命」と受け止めていました。キリスト教系の幼稚園で、保護者から「お祈りの意味は」「愛とは」と聞かれたり、また、クリスチャンでない同僚から「聖書やキリスト教のことを教えて欲しい」と頼まれることもありました。そんな中で「もっと聖書の勉強をしたい。神学校で学びたい」との思いが募ってきました。そこで牧師である父に相談したのですが、「神学校は牧師になるための学校だが、あなたは牧師になるのか。主に呼ばれたのか」との厳しい言葉……。

それまで自分の中に牧師になるという考えはありませんでした。しかしそのときから伝道者としての召命を祈り求める生活が始まりました。そして「あなたは人間をとる漁師になる」(ルカ5:10)との主の呼びかけを聞き、「私の思い込みでなく、召命であるならば、すべてを備えてください」と祈りました。すると主は多くの導き手を通して伝道献身者への道を備えてくださいました。そのとき、同じ祈りを共有する仲間たちが集まっていたのが、学生時代から何度も参加した全国教会青年同盟の修養会でした。そして召命について真剣に祈り始めてから1年後、東京神学大学への入学を許されました。

神学校時代は、「主にあって男も女もなく」(ガラテヤ3:28)自由な雰囲気の中で伝道者と立てられるべく、神学の研鑽を積みました。そして卒業後、伝道する喜びを多く経験しました。牧師にとって最も大きな喜びは、やはり洗礼式。あるときは、夫妻の洗礼とその子どもたち三人の幼児洗礼、キリストにあって一つとされる家族が生まれました。ほかにも洗礼式のたびごとに、主の恵みの御業を最

も近くで目撃する感動を味わいました。

そのように伝道の喜びを豊かに経験する一方で、女性であり、牧師であること、その現実の中で「伝道者とは何者か」との神学的課題へ向かい合う必要に気づきました。そのような折、説教集や著作を通して日本最初期の女性牧師、植村環と出会い、一伝道者としての彼女の伝道活動と教会形成の在り方に興味を持ちました。今は研究論文の作成にも取り組み、植村環を日本プロテスタント教会史に位置づけ、さらに現在の日本伝道と教会形成を神学的に分析していく視点を与えられています。

教会の青年会で出会った夫は、牧師として聖学院大学へ遣わされています。教会とキリスト教学校に仕えるふたりの共通課題は「青年伝道」です。特に、自分たちも育てられた、全国教会青年同盟に関わり、修養会やセミナーを通して、これからの日本伝道を担い、次世代の教会に仕える伝道献身者が起こされることを願っています。若い人たちが神さまの呼びかけを聞き、主の召命に応えることができますよう祈りつつ。

### 松本牧師のある1週間

日	CS礼拝 主日礼拝 役員会 CS教師会 訪問
月	読書や原稿執筆など
火	聖書研究祈祷会準備 新来者への手紙など
水	説教要旨 週報原稿作成
木	聖書研究祈祷会 家庭集会 「教団新報」編集委員会
金	説教準備 会議資料作成
土	説教準備

明治学院中学校・東村山高等学校 チャプレン・聖書科教諭

## 今村 栄児 (いまむら えいじ)

### 今村教諭のこれまで

- ▶1968年 千葉県生まれ。幼いころ亡くなった祖父は素封家の生まれで村唯一のクリスチャンだった。しかし一家は一般的なノンクリスチャン家庭として暮らしていた。
- ▶1991年 國學院大学文学部哲学科卒業。同年イースターに日本基督教団千葉教会で受洗。
- ▶1993年 東京神学大学3年次編入学。
- ▶1998年 東京神学大学大学院修了。東北学院中学校・高等学校聖書科教諭に赴任。
- ▶2003年 明治学院中学校・東村山高等学校の聖書科教諭・チャプレンとして着任し、今に至る。



## 伝道者は人生の全てに関わる。 教務教師にも、骨太の神学が必要。

**実** は、東神大を不合格になったことがあります。大学の授業「キリスト教概論」で聖書に出会い、さらに西洋古典哲学を学び、中世の聖人伝説をラテン語で読んだりしているうちに、この偉人、聖人たちが命をかけて「神よ、キリストよ」と呼びかけるものは何なのかが気になり始めました。大学3年生のある日、県立図書館に行った折に千葉教会を訪ねました。実は、私の祖父は村唯一のクリスチャン。亡くなるまで一人でこの教会に出席していたのです。古くからの教会員によると祖父のあだ名は“哲学者”で、その孫が哲学科の大学生として現れた巡り合わせを、とても喜んでくれました。こうして教会に通うようになり、しばらくして洗礼を受けました。

大学卒業後、牧師と話すうちに東京神学大学で学びたいと思い立ちましたが——冒頭のように、入学は叶いませんでした。面接で「召命、献身について思いを述べてください」と問われて、言葉を返せなかったのです。

当時の私は、礼拝出席以外の教会の交わりにはほとんど加わらず、どこかでキリスト教を「学問対象」と捉えていたのかもしれませんが。態度を改め、教会学校教師の奉仕や委員会活動に参加して初めて「教会はなんと有機的に動いているのだろう！」と生から死まで人生の全てに関わる豊かな働きを実感。ようやく「キリストと教会に仕える」という召命が与えられました。

神学校卒業時には、ギリギリになって教務教師として声がかかりました。教会に仕えるつもりでいたので、赴任したときはカリキュラムも知らず生徒に教える心構えもできていません。当然、授業も学級運営もうまくいかず、教員になるべくしてなった同僚の中で違和感を抱え、迷惑をかけた通しでした。その後誘われたのが今の学校です。「向いて

いないと思います」と一度はお断りしたのですが「そんな先生だからこそ来ていただきたい」との言葉。本当にありがたかったです。

こんなデコボコ道の教師人生ですが、それでもなんとか倒れず来たのは、東神大で“骨太の”神学をしっかり学ぶことができたからだと思います。例えば「学校礼拝ではどんな讃美歌を歌うべきか」といった議論が起きたとき、判断の根本には神学が必要です。授業はもちろん、神学に根差したキリスト教の真髄を真剣勝負でぶつけます。そんな私のことを生徒らは「暑苦しい」と言いつつ、応えてくれます。高校3年生の選択授業では神学者マクグラスのテキストを用い「神の全能性について」等のテーマに力いっぱい挑みますし、チャペル礼拝の最後の祝祷、とくにアロンの祝祷が大好きで教会に通うようになって受洗した子もいる。こんな素晴らしい働きに用いられるためにも、東神大を目指す方には、とことん神学を学び、神学と格闘していただきたいと思います。今の私も、神学生時代の厚みのある学びに助けられてきたのです。

### 今村先生のある1日

8:00	職員礼拝
8:40	チャペル礼拝
9:10~15:00	授業(週に17コマ+αを担当) 空き時間に各種会議(生徒自治の会議、キリスト教活動委員会、学年会など)
15:00~15:30	ホームルーム
15:30~	生徒指導面接、委員会や部活動を顧問として指導
18:30~	学年の仕事、学校行事準備、テスト等の採点、授業準備など
21:00頃	帰宅

\*取材時は、クラス担任、高校生徒会担当、募集入試委員、宗教委員(キリスト教活動委員)を務め、クラブ活動として、キリスト教研究会、中学男子バスケットボール部の顧問。日曜日は出席教会で教会学校教師。



# 伝道者を育てる東京神学大学

## 1 全員が伝道者を目指す“召命共同体”

東京神学大学の神学生は自らの学びの場をしばしば“召命共同体”と称します。これは、本学に集う者は学生も教員も神の呼び出しに応えるために、つねに自らの召命を神の前に問いつつ、授業と研究はもちろん、毎日のチャペル礼拝、クラスごとの祈祷会を通して生きた神学の研鑽に励んでいるからです。このため入学に際しては、“召命”が厳しく問われます。学びへの興味、欲求だけでなく、福音の伝道者として神に召されているのか。キリストの血の代価として罪から買い取られたことを心に刻み、これまでの自分を捨て去って主イエス・キリストに献身する決意があるかどうかという問いです。なぜなら、伝道者を目指して神学を追求するには、学問を究める理性と神と向き合う靈性がひとつになることが大切だからです。

## 2 教会による教会のための合同神学校

東京神学大学は、戦後1949年に日本基督教団立の新制大学としてスタートしました。しかしながら歴史は古く、明治初期のブラウン塾に端を発し、多くのプロテスタント諸教派の神学校が合流してできた合同神学校(ユニオン・セミナリー)です。神学教育機関として各神学校の伝統を引き継ぎつつ、日本のプロテスタント諸教会が総力を注いで育んだ高度な神学教育を提供しています。

「教会による、教会のための大学」という意味は、本学の神学生が必要とする経費(年間約300万円/1人)のうち、およそ半分を全国各地の諸教会からの献金で支えられていることから明らかです。神学生は、そのような諸教会からの推薦を受けて入学し、学びを終えて卒業したとき、ほとんどはこれらの諸教会に派遣されます。

## 3 教会だけでなく キリスト教学校を通して伝道する

キリスト教学校に派遣されて若い魂に福音を語ることも、“伝道者”、“牧師”の働きです。東京神学大学の大切な使命の一つとしてプロテスタントのキリスト教中学校、高等学校における宗教科・聖書科の教師(教務教師)を養成することも挙げられます。本学では、通常的神学教育プログラムと並行して教育職員免許状の取得課程があり、これまでも多くの教員を送り出してきました。彼らの学校での働きの中からも、次世代を担う多くの受洗者、献身者が起こされています。





# 大学院まで一貫したプログラム



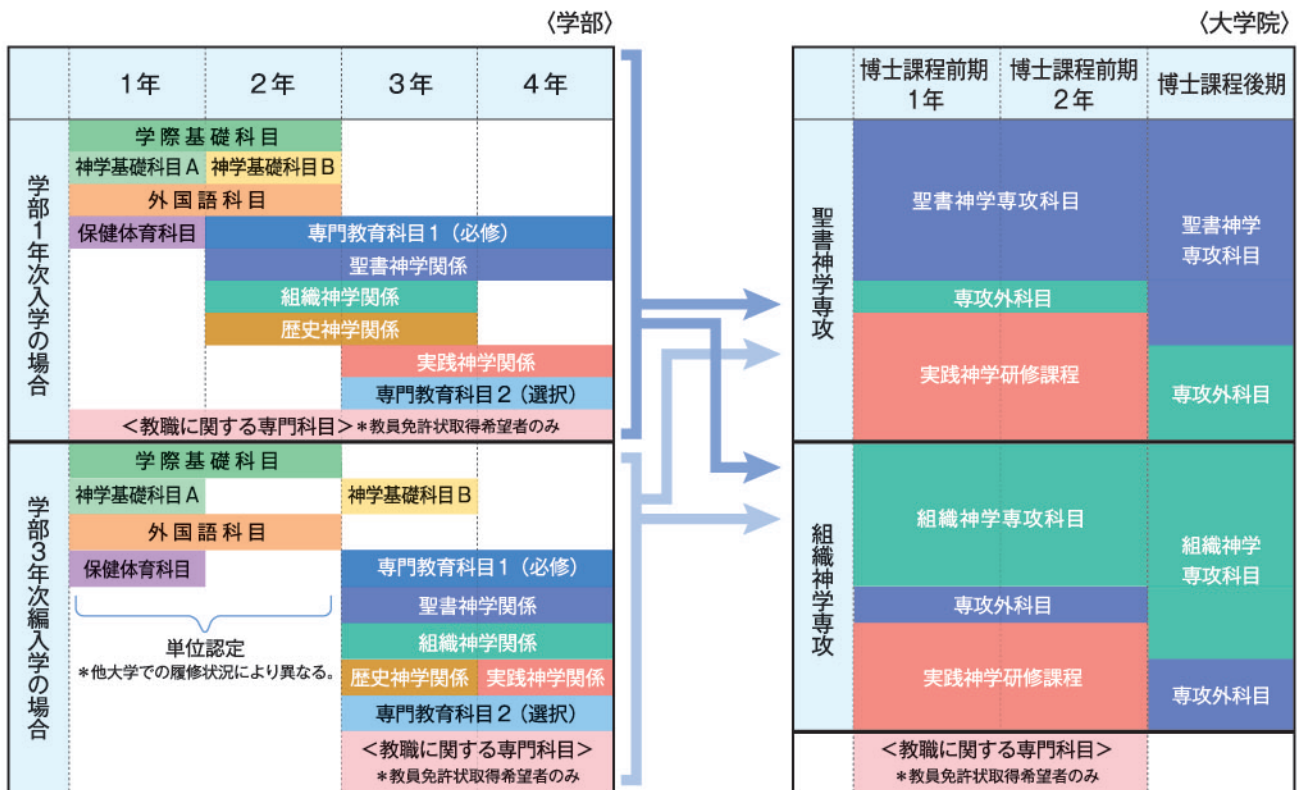
## 学部1年からは6年間、 学部3年からは4年間

キリスト教の伝道者として整えられるためには、充実した学びが必要です。そのため、本学では、学部だけではなく、大学院までを一貫した神学教育プログラムとして提供しています。このため、ほとんどの学生が、学部1年から入学した場合は、学部4年間、大学院2年間の計6年間、学部3年から編入学した場合(多くの他大学卒業者の場合)は、学部2年間、大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。

## 神学の学びと教会生活の両方で、 伝道者として整えられる

本学には「神学校と教会は車の両輪である」というモットーがあります。そのため神学生にとって教会生活は、大学での学びと並行する重要なもの。学生はそれぞれの出席教会(出身教会とは限らない)の礼拝に加わり、神学生として奉仕し、交わりのときを持ちつつ、牧師の指導の下、教会に仕えることを学びます。さらに、神学校のプログラムとして学部4年次、大学院1年次に「夏期伝道実習」があり、全国各地の教会に遣わされて約5週間の伝道実習を体験します。

### カリキュラムイメージ



教会生活

夏期伝道実習

\*このカリキュラムイメージは一例です。特に編入生の場合は、単位認定状況に合わせて、必要な学びが得られるよう指導しています。  
\*学部には神学の4つの専門分野があり、大学院では聖書神学(新約・旧約)と組織神学(組織・歴史・実践)に分かれます。



# 神学の4つの専門分野

聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

## 聖書神学

### ●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学／聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語るときに、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証しするキリスト御自ら語ってくださいます。

### ●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学／聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。

種別	科目名		
学部専門教育科目	旧約聖書神学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ヒブル語Ⅱ(旧約専必)	
	旧約聖書釈義	アラム語	
	新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	シリア語	
	新約聖書釈義	新約聖書神学Ⅳ	
	ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ	新約時代史	
	旧約聖書神学Ⅳ	新約原典講読Ⅰ(新約専必)	
	ヒブル語Ⅰ(旧約専必)	新約原典講読Ⅱ	
博士課程前期課程	旧約聖書神学関係	旧約聖書原典講読Ⅰ・Ⅱ	シリア語
		旧約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ	古代オリエント史Ⅰ・Ⅱ
		旧約聖書神学特講Ⅰ・Ⅱ	聖書考古学
		旧約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ	アッカド語
		旧約聖書学演習Ⅰ・Ⅱ	修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ・Ⅱ
	アラム語		
新約聖書関係	新約聖書学特講Ⅰ・Ⅱ	新約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ	
	新約聖書学演習	修士論文指導演習 新約神学Ⅰ・Ⅱ	
	新約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ		
博士課程後期課程	旧約聖書関係	旧約聖書神学特殊研究	聖書語学特殊研究
		旧約聖書文学特殊研究	聖書考古学特殊研究
		旧約聖書原典特殊研究	
	新約聖書関係	新約聖書神学特殊研究	聖書解釈学特殊研究
	新約聖書原典特殊研究	原始キリスト教特殊研究	



### 大住 雄一 (おおすみ ゆういち)

- 1983年東神大大学院卒。独べーテル神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1990年以来、東神大で教え、現在、教授。
- トラーの解釈。旧約を読むと、律法は人を縛るものではなく、喜びであり、恵みとして賛美されています。律法とは何でしょう。教会でもその恵みを共に味わいたい。その恵みを探す研究です。
- 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



### 中野 実 (なかの みのる)

- 1987年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2001年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 福音書研究、史的イエス研究など。今も生きておられる世界の救い主イエス・キリストは、ポンテオ・ピラトのもとで十字架につけられた方です。この歴史と信仰とのユニークな結びつきにキリスト教信仰の深みがあります。そんな神学的関心に基づいて史的イエス研究、福音書研究をしています。
- 新約聖書神学、新約聖書学特講など。



### 小友 聡 (おとも さとし)

- 1986年東神大大学院卒。独べーテル神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1999年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 旧約聖書およびユダヤ教の黙示思想など。旧約聖書の中で後期の文学が研究領域。コヘレトの言葉やダニエル書など周辺の文書から旧約(ユダヤ教)の思想や倫理を探究しています。黙示思想に関心があります。
- 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



### 焼山 満里子 (やきやま まりこ)

- 1997年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2007年以来、東神大で教え、現在、准教授。
- 新約聖書、特にパウロ研究。パウロの伝道、教会形成について、またパウロ教会を中心とした初期キリスト教思想形成を研究しています。
- 新約聖書神学、新約聖書釈義など。

神の真理を明らかにする

# 組織神学

## ●教義学を中心に、倫理学、弁証学をも含む

「組織神学」は、神の恵みの真理をできる限り責任的に深く明らかに示そうとする人間の学問的作業です。その中心には、聖書の証言に従い、啓示の真理として、真の神がおられ、その救いの御わざがなされたこと、なされ続けていることを示す「教義学」があります。また、現代の教会とキリスト者が具体的にどう生きるかを探求する「倫理学」も組織神学の一環です。さらには人間の現実や時代や社会の問題の文脈で、福音の真理とその権利を明らかに示す「弁証学」も含まれます。組織神学は、それら一つひとつにおいて、またそれら相互の関連において一貫した整合的な筋道を明らかにしようと努力します。

## ●現代の教会とキリスト者を支える

しかしいざれにしても、神学は人間のわざですから、完全なものになりきることはできません。繰り返し、「より明らかに、より深く」を目指して神の恵みの真理に応えようと、挑戦され続けます。そのようにして現代の教会とキリスト者を支え、社会全体に対しても人間理性を越えた超越的な真理からの光を受けとめようと努力するわけです。組織神学は素晴らしい学問です。

種別	科目名	
学部専門 教育科目	組織神学Ⅰ 組織神学Ⅱ	組織神学Ⅲ
博士課程 前期課程	組織神学特講Ⅰ 組織神学特講Ⅱ 組織神学特研Ⅰ 組織神学特研Ⅱ 組織神学演習Ⅰ	組織神学演習Ⅱ 組織神学演習Ⅲ 信条学 修士論文指導演習 組織神学Ⅰ 修士論文指導演習 組織神学Ⅱ
後期課程 博士課程	教義学特殊研究 現代神学特殊研究 現代哲学特殊研究	キリスト教社会倫理特殊研究 宗教改革神学特殊研究 組織神学共同演習



1592年カルヴァン キリスト教綱要  
(東京神学大学図書館収蔵)



## 近藤 勝彦 (こんどう かつひこ)

- 1970年東神大大学院卒。独テュービンゲン大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1978年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 贖罪論や終末論の他、特に「キリスト教弁証学」に力を注いでいます。人間、歴史、日本の問題、現代の世界文明の文脈でキリストにある福音の真理や教会存在の意味・正当性の論証を試みています。
- 組織神学、組織神学特講など。



## 神代 真砂実 (こうじろ まさみ)

- 1987年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。1998年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 教義学、特にカール・バルトの神学思想。キリスト教の信仰内容を体系的に関連づけたり、現代社会とキリスト教との関係を考える分野が専門です。「ミステリとキリスト教」ということさえ扱えます！
- 神学通論、組織神学、組織神学演習など。



## 芳賀 力 (はがつとむ)

- 1979年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1987年以来、東神大で教え、現在、教授。
- キリスト教組織神学(教義学、倫理学、弁証学)。現在「神学の小径Ⅰ—啓示への問い」で、キリスト教信仰の新しい体系的考察に取り組んでいます。物語る教会を土台にした教会の教え(教理)の再構築です。
- 組織神学、組織神学演習など。

2000年の諸教会の歴史を学ぶ

# 歴史神学

## ●歴史神学／教会史とは

歴史神学／教会史とは、歴史学という学問的ファインダーを覗き、たとえば2000年にわたり世界史道路を走行してきたキリスト教諸教会バスの信仰的活動の歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検する学科です。それによって、現代教会の今後の形成のために具体的な諸指針を学ぶためです。

## ●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史(選択)、世界と日本の宗教史、ラテン語(選択)などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びがさらに深められるようコースが用意されています。

種別	科目名	
教育部 専攻科目	教会史Ⅰ	宗教史Ⅰ
	教会史Ⅱ	宗教史Ⅱ
	教会史Ⅲ	アメリカ教会史
	教会史Ⅳ	教理史Ⅰ
	教会史Ⅴ	教理史Ⅱ
博士課程 前期課程	教理史演習Ⅰ	教理史特講Ⅱ
	教理史演習Ⅱ	教会史演習
	教会史特講Ⅰ	英国教会史
	教会史特講Ⅱ	修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ
	教理史特講Ⅰ	修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ
後期課程 博士課程	神学史特殊研究	教父学特殊研究
	宗教改革史特殊研究	日本宗教思想史特殊研究

だから、歴史神学を学ぶ意味は、牧師、教務教師志願のみなさんが、いわば将来、教会バス、学校バスに乗って開始する運転活動に欠かせない専門知識、諸バスの運転情報、道路地図、カーナビ情報等を蓄積し、熟練した「道路通運転士」となるための学びのひとつなのです。



棚村 重行 (たなむら じしげゆき)

- 1977年東神大大学院卒。米シカゴ大学神学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。1993年以來、東神大で教え、現在、教授。
- 19世紀アメリカ神学思想史、19世紀日本プロテスタント神学思想史など。近代英米教会史と日本教会史を連結する新研究を完了し、『二つの福音は波濤を越えて』を出版した。霊的生活史では、三位一体の神の像とその回復を主題とし、学びを続けています。
- 教会史、教会史特講など。



関川 泰寛 (せきかわ やすひろ)

- 英エディンバラ大学神学部卒。1983年東神大大学院修士課程卒(神学修士)。日本基督教団正教師。1996年以來、東神大で教え、現在、教授。
- 古代教会史、教父学など。古代の教会史・教理史の研究をしています。4世紀の正統と異端の論争、教理と礼拝や霊性との関係、キリスト論や三一論の形成など。主著に『アタナシオス神学の研究』があります。
- 教会史、教理史演習など。

## その他の科目 (学部)

東京神学大学では、学際基礎科目(一般教養にあたる科目)や、外国語、保健体育、教職に関する科目も開講されています。また、神学の各分野にまたがった神学基礎科目や専攻間共同科目もあります。

種別	科目名
学際基礎科目	人文科学系 哲学思想史/キリスト教と世界史/キリスト教と文学1世界文学;2日本文学/キリスト教と芸術1美術史;2音楽史/心理学
	社会科学系 社会史/法と人権1法学概論;2日本国憲法/宗教と社会1デモクラシーと政治;2ウェーバーとトレルチ
	自然科学系 現代の自然観/生命の理解とバイオエシックス/環境と生態学/精神医学とキリスト教/保健衛生
	情報科学系 情報基礎
神学基礎科目	キリスト教通論Ⅰ・Ⅱ/聖書通論1旧約通論;2旧約時代史;3新約通論・歴史/神学通論
外国語科目	必修 英語Ⅰ/ドイツ語ⅠA(初級)/ドイツ語ⅠB(コミュニケーション)
	選択 英語Ⅱ/英語実践Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅱ
古典語	ラテン語

種別	科目名
保健体育	体育Ⅰ・Ⅱ
学部演習	旧約聖書学/新約聖書学/組織神学/歴史神学
神学書講読	英語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ/組織Ⅰ・Ⅱ/組織歴史Ⅰ・Ⅱ 独語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ/組織Ⅰ・Ⅱ
専攻間共同	アジア伝道論演習
教職専門科目 に関する	講義 教職概論/心理発達と教育/教育基礎論Ⅰ・Ⅱ/宗教科教授法A・B/道徳指導法/特別活動指導法/教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ/教育的指導と相談の研究Ⅰ・Ⅱ
	演習・実習 教職演習/教育実習

## (博士課程前期課程)

専攻間共同	日本伝道論演習/アジア伝道論演習/共同演習
-------	-----------------------

牧師になるための実践的な学び

# 実践神学

## ●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「牧会学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。「実践神学」を「牧師学」すなわち牧者になるための学びとしてとらえることもできます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具として用いられるために「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

## ●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださるとき、土の器である人間が「<牧者・羊飼ひ>」としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人のキリスト者が「<牧師>」とされ、「<聖霊の器>」とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も「実践神学」の重要な学びのひとつです。

種別	科目名	
学部専門 教育科目	実践神学概論 キリスト教教育概論 教会実習Ⅰ・Ⅱ 教会教育入門	牧会心理学 臨床牧会教育 説教学入門
博士課程前期課程	キリスト教教育特講 実践神学演習 キリスト教教育特研 宗教社会学演習 教会音楽	牧会心理学特講 牧会カウンセリング特研 臨床牧会教育 牧会心理学
実践神学研修課程	説教学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 礼拝学演習 牧会学演習 教会と神学校 日本基督教団史Ⅰ・Ⅱ 日本基督教団論 エキュメニズムⅠ (世界のエキュメニズム) エキュメニズムⅡ (東アジアのエキュメニズム) ITと伝道	青年伝道 刑務所伝道 地方伝道 キリスト教系諸宗団の問題 在日コリアン問題 部落解放とキリスト教Ⅰ・Ⅱ 障害者と教会 高齢者ケアと牧会 教会付属幼稚園・保育園(所) の諸問題 牧会者の挫折とその克服
後期課程 博士課程	キリスト教化学特殊研究	



## 山口 隆康 (やまぐち たかやす)

- 1970年東神大大学院卒(神学修士)。独ハイデルベルク大学留学。日本基督教団正教師。1986年以來、東神大で教え、現在、教授。
- 研究領域は説教学、礼拝学、牧会学、教会法など日本における伝道と教会建設に取り組む実践神学。担当科目は、説教学演習、礼拝学演習、牧会学演習、日本伝道論演習など。
- 実践神学演習、説教学演習など。



## 小泉 健 (こいずみ けん)

- 1997年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。2008年以來、東神大で教え、現在、常勤講師。
- 説教学、教会建設論など。宗教改革者は教会を「御言葉の創造物」と呼びました。説教が教会を建設するとはどういうことかを、改めて探求しています。そこから教会のあらゆる営みへと課題が広がります。
- 実践神学概論、説教学入門など。



## 朴 憲郁 (パク ホンウク)

- 1974年東神大大学院卒。監理教神学大学院研修。韓国イエス教長老会神学大学院修士。独チュービンゲン大学神学部博士課程卒(神学博士)。在日韓基督教団正教師(現在、日本基督教団への宣教師)。1994年以來、東神大で教え、現在、教授。
- キリスト教教育、新約神学、アジア・キリスト教伝道学。キリスト教教育分野では教会教育、学校教育、家庭教育、公教育との関係の共著書が多数。新約神学分野では「パウロの生涯と神学」の近著があり、アジア伝道論では研修旅行も行っています。
- キリスト教教育概論、アジア伝道論演習、キリスト教教育特講など。

パストラル・ケア担当

## ウェイン・ジャンセン

(Wayne Jansen)



- 米ウエスタン神学大学博士課程卒(牧会学博士)。米国改革派教会正教師(現在、日本基督教団への宣教師)。2002年以來、東神大で教え、現在、教授。
- 臨床牧会教育など。臨床牧会教育の目的は受講者が自らの個人的な課題を把握することを通し、より有能な牧会者になることです。「ベルハー-信仰告白」を研究し、キリスト者として人権を大切にすることに努力しています。
- 牧会心理学、臨床牧会教育など。



# 東京神学大学の1年

東京神学大学の緑豊かなキャンパスは活気に満ちています。講義は徹底した少人数制で、学生と教員は互いに真剣な議論を交わします。また、学生会が中心になって毎日のチャペル礼拝、春の運動会、秋の全学修養会、クリスマス祝会などが行われます。学生の年齢層は10代から70代まで幅広く、入学前の社会経験、出身教派も多様。互いに切磋琢磨しながら学んでいます。



クラスが一致団結する運動会

全学懇談会  
学生総会  
運動会



夏期伝道実習に向かう神学生を  
祈りで励まし送り出す壮行祈禱会

## 夏期伝道実習

学部4年次、大学院1年次の夏に約5週間にわたって行われる必修プログラム。学生は全国各地の教会に遣わされ、牧師を見習い、説教や聖書研究や祈禱会の奨励などの奉仕をしながら伝道者としての日常を学ぶ。

夏期伝道実習  
夏期休業

4

5

6

7

8

9

入学式  
新入生・編入生オリエンテーション

夏期伝道オリエンテーション  
夏期伝道壮行祈禱会  
夏期伝道実習

夏期伝道報告会  
修士論文提出締切  
青年の集い



女子寮の食事会での交わり

## 日本伝道を担う青年の集い

献身を考えている若い世代を対象に、毎年9月の第4土曜日に開催される集い。開会礼拝に始まり、さまざまなテーマによる分団でのディスカッション、模擬授業、先輩伝道者の「証し」などがあり、神学校生活の一端を体験することができる。



神学の学びの一端に触れる、  
青年の集いの模擬授業



### 委員会

学生会を中心とする各種委員会が運動会や修養会、愛餐会などの行事を企画・運営したり、学生ラウンジを整備したりし、互いの学生生活を支える。中には複数の委員を兼任する学生もいる。委員会活動を通じて学年を超えた交流も育まれる。

### 学生寮

キャンパス内には学生の自治による男子寮、女子寮がある。さまざまな年齢層の学生が生活を共にし、「寮の交わりによって神学生生活が支えられた」という感想も多い。授業のある日の早朝には寮拝があり、寮生が持ち回りで奨励を担当する。

### クラス

各学年の集まりを「クラス」と呼ぶ。クラスごとに担任教員がおり、週に1度のクラス祈禱会で共に祈り、共に学び、助け合う。卒業後も交流は続き、キリストに呼び集められた者同士として長く支え合う牧師たちも多い。

## 神学校日

毎年10月の第2日曜日（派遣先の教会によって異なる場合もある）、神学生および教員が全国各地の教会に派遣されて説教奉仕を行う。祈りと献金によって東京神学大学を支えてくださる諸教会に感謝する機会でもある。



学生会によるクリスマス愛餐会の風景

## アジア伝道研修旅行

アジアにおけるキリスト教伝道の課題を授業によって学び、さらに、アジアの現実を学生たちが肌身で学ぶことを目的とした研修旅行が1年おきに実施されている。これまでに韓国、台湾、フィリピン、中国などを訪れ、現地の教会や神学大学と交流しつつ研修を重ねている。

神学校日・説教奉仕

オープンキャンパス  
クリスマス礼拝  
クリスマス愛餐会

2月入試・合格発表  
アジア伝道研修旅行(隔年)

10

11

12

1

2

3

全学修養会  
11月入試・合格発表

教職セミナー

卒業礼拝  
卒業・修了式  
3月入試・合格発表



神学専門図書館

## 教職セミナー

毎年1月、全国から集まる教職者（牧師、伝道師）と修了直前の神学生らが、3日間寝食を共にしながら、一主題のもとで講演やシンポジウム、分団などのプログラムを通して今日の教会の課題を神学的に話し合う。卒業後の貴重な再研修の機会であり、日本基督教団以外の教職者も参加可能。



伝道者として旅立つ卒業式



## 神学する

神学は“学ぶ”だけではなく“神学する”もの。その意味するところは、講義や実習に限らず寝食を含む生活場面すべてにおいて神の真理を追究し、ときに情熱的に、ときに冷静に論理的・批判的に、日々格闘するように神学に相對することだと言う。

## 神学専門図書館

“神学する”学生を支えるものは多いがそのうちの一つは、東京神学大学が誇る神学専門図書館。古今東西のキリスト教文献およそ10万冊（洋書約6万冊、和漢書など約4万冊）を収蔵し、学内のみならず学外の研究者にも広く利用されている。

## 徹底した少人数教育

学部および大学院の在籍学生数は120名前後で、教員と学生の比率はおおよそ1:9。この恵まれた環境の中で、教員と学生はお互いに深く知り合い、交わりながら共に学ぶ。

## 留学生

全学生のうち、約10%が留学生で、韓国と中国の出身者が多くを占める。「母国だけでなく、日本で伝道したい」という熱意を持ち、日本語を学びつつ神学に挑む彼らは、日本人学生にとって大きな刺激となっている。

## ～教授編～

実践神学分野 牧会心理学  
臨床牧会教育 担当教授

ウェイン・ジャンセン



「東京神学大学の学問的な水準は高く、アメリカの主要な神学校にも引けを取りません」とジャンセン教授は言います。ただし「伝道者にはアカデミックな知識だけでなく、人と寄り添う人間性も求められます。そのためには、自分を見つめる学びが重要です」と続けます。

その一例として、ジャンセン教授の担当する「教会実習」の授業では、「会話の逐語記録の検討」を行います。これは、学生同士がペアになって悩みを聴き合い、その会話を逐一記録し、その後クラス全体で「なぜこのように言ったのか」「なぜこのように言わなかったのか」をディスカッションするもの。

「指摘されていい気持ちはしませんが、自分を知るには大切な作業です。もし牧師自身が相談者と似たような課題を抱えていて、しかもその扱い方がわかっていない場合、牧師は自分を防衛するでしょう。この場合相談者との会話は表面的になるか、別の軽い話題に終始し、相手を助けることはできません。教会の場に出てからこのような過ちを犯さないために、授業の中で自分はどのような人間なのか、どのような弱みを持っているのかに目を向けます。この作業は辛いものですが、乗り越えて初めて人に対してオープンになれるのです」

深刻な相談に対して「聖書にはこう書いてある」とか「〇〇という神学者はこう言っている」といった知識を話しても、あまり助けにはならないと教授は言います。相談者はむしろ落胆し、牧師自身も助け手となれなかったことに自責の念を感じたり、焦燥感を持つこともあるでしょう。

「私が専門とするパストラルケアは、教会の宣教伝道とはちょっと違います。何よりも重要

人を助けるには、まずあなたが心を開いていることが重要。  
「自分を見つめ、自分を知る学び」が欠かせません。

なのは癒されること。癒しとは、“つながりの回復”です。相手に無理に悩みを吐き出させる必要はなく、場合によっては、挨拶だけでもいいのです。つながりを断たれて孤独な状態にある人を、キリストの実存のもとに再びつなぎ直す働きです」

若き日に召命について悩んでいたとき、ジャンセン教授自身も神との関係の回復を経験したそうです。「ちょうどヨナ書の第2章を読んで祈っているときでした。ここに祈りを聞いてくださる神さまがいる。その存在を感じたとき、神さまとの関係が新しくなり、悩みは変わらず存在していても、心に癒しがもたらされました」

「私も、あまりにも辛い状況にある人を前に言葉を失うことがあります。何もできないことに打ちひしがれます。しかし、そんなときこそ私たちは福音を忘れてはなりません。相手に押し付けるのではなく、自分が福音を信じて生きていることを喜ぶ。人は喜びを持つ人に近づきたい、仲間に入りたいと思うものです。そこに関係性ができてくるでしょう。東京神学大学で学ぶ神学生には、自らを見つめる学びの先に、『喜びに溢れている人生』を発見して欲しいと願っています」

### Wayne Jansen

アメリカ・ウィスコンシン州生まれ。RCA（アメリカ改革派教会）派遣の準宣教師として日本のキリスト教系中学・高等学校で4年間英語講師を務めた後、ウェスタン神学校で学ぶ。卒業後、インターンとして精神病院のチャプレンを務め、その後再来日し聖隷三方原病院で7年間臨床牧会プログラムに従事。2002年に東京神学大学着任。近隣の病院での臨床牧会実習も担当。





## ～学生編 1～

現役学生が「東神大ならではの！」の授業の醍醐味、  
学生生活の喜びを紹介します。

説教学入門  
説教学演習

大学院2年生  
藤野 雄大



「説教そのものが語る」その言葉を謙虚に伝えたい  
と言う藤野神学生

「できない」ことに直面し、  
苦しみながら「説教」の深みに近づく。

私は神学校入学前にも、また神学生になってからも、教会奉仕で説教をする経験がありましたから、この授業を受ける前までは、内心「けっこう説教は得意なのではないか」と思っていました。しかし、授業でその思いは打ち崩されました……徹底的に。

授業で行う「説教分析」では、他者の説教原稿——カール・バルトのような著名な神学者のものだったりするのですが——を読み4色のマーカーで内容を分類します。①神の御名、②説教者の言葉、③会衆あるいは世間一般の言葉、④聖書からの引用といったように。こうすると、説教者自身も意図していなかった“説教そのものが語る言葉”が浮かび上がってくるのです。授業では自分たちの書いた説教原稿も同様に分析し、皆で討論します。原稿は無記名で誰が書いたかわからないまま配られますので、皆けっこう辛口にコメントします。私も自分の書いた説教が授業で取り上げられ、分析されたときは凹みました。でも、この作業を繰り返すうちに自分の説教の問題点が見えてくるのです。

大学院生になると、授業だけでなく、学内のチャペル礼拝での説教も順番に担当します。他の神学生、先生方の前で御言葉を語るわけですからどうしても緊張します。終わったあとには近藤学長直々に説教についてご指導くださるのでなおさらです。このように、さまざまな場面で鍛えられますね。

ここまで「説教学」を学んで得た一番の収穫は、自分が説教だと思っていたものは説教ではなかったということ。たぶん、卒業までに、いや、一生かかっても説教が「できる」ようにはならないでしょう。でも同時に「説教」のわざの深さに気づくことができました。神さまの恵みに触れることのできる素晴らしい授業です。

ギリシャ語

大学院1年生  
宮寄 薫



先生の熱意に圧倒されると宮寄神学生が言う  
ギリシャ語の授業

難解な語学も、身につければ  
真理の鉱脈を探る道具になる。

「説教学」が神学校の総仕上げだとすると、新約聖書の言語であるギリシャ語を身につけることは、牧師の基礎の基礎、土台です。だからこそ、必修科目なのですが、難しいからと腰が引けたまま消極的に授業を受けていては、もったいないと思います。

もちろんアルファベットも違えば、単語の活用、時制の変化など文法は複雑ですし、暗記することも山ほどあります。私は3年次編入生ですので、入学当初は前期に2コマ、後期に1コマの授業を受けねばならず、授業の進むスピードと膨大な課題にたいへんな思いをしましたが、単語カードを作ったり、声に出して唱えるなど身体で覚えて乗り切りました。

東神大でギリシャ語を学ぶことの最大の幸福は、ご担当の三永旨従先生(講師)が、「ギリシャ語の原典で聖書を読んで福音を伝える……世の中にこんな素晴らしいことはない!」と、確信と情熱を持って教えてくださることです。その思いに共感した私は、他の聖書の言語も学びたくなり、学部4年生のときにヒブル語を選択し、さらにお隣のルーテル学院大学で互換授業\*のラテン語も取りました。同時に学ぶコツは、あくまでも私の場合ですが「ギリシャ語は論理的でクール、ヒブル語は自由でやんちゃ、ラテン語はキチンとしつつ色気もある」と古典語3兄弟それぞれに固有の“人格”を見極め、違う恋人と付き合っているつもりで(笑)頭を整理することです。

こんなちょっとした工夫で楽しく勉強できますし、学生同士で予習復習を助け合うこともありますから、怖がることはありません。なんといっても、聖書の原典の言葉は、キリストの真理の鉱脈を探る道具。これを手にしたら、もっと深いところに手が届くと思い、ワクワクしながら学んでいます。

\*互換授業：隣接するルーテル学院大学と東京神学大学で単位を認定する科目。



## ～学生編 2～

現役学生が「東神大ならではの！」の授業の醍醐味、  
学生生活の喜びを紹介します。

### 教会生活

学部3年生

井垣 しおん



教会学校の子どもと学ぶ井垣神学生

### 授業、チャペル礼拝、友人との交わり キャンパス生活のすべてが教会につながる。

東神大に入学すると、教会では神学生として奉仕することになります。教会員から神学生になって一番変わったことは、「受け身ではいられない」ということ。ついこの前の高校生までは御言葉を聴く側でしたが、神学生になったとたん神さまの言葉を発信する立場になったからです。また、いままで当たり前だと思っていたこと、例えば礼拝の形式やお祈りひとつをとっても、神学校でその神学的な意味を学び、より積極的に礼拝に関わる気持ちが強くなりました。

教会学校の教師にもなり、どうしたら子どもたちに伝わるか、子どもたちが聖書に親しむにはどうしたらよいかを日々考えています。私は絵を描くことが好きなので、紙芝居をつくったり、聖書のお話をするときにイラストを添えたりといった工夫をしています。自分のタラントが生かされる喜びを感じるとともに、勝手な解釈にならないよう私自身が聖書をよく学び、よく祈り、神さまと日々向き合っ、整えられることの必要性も感じます。

東神大にはさまざまな経験を持つ幅広い年齢の学生がいて、いろんな刺激を受けます。授業やチャペル礼拝、祈祷会に加えて、友人や先輩との交わりなど、キャンパスの生活すべてが教会での礼拝、奉仕につながっている。だから「召命共同体」ですし、これが「神学校と教会は車の両輪」と言われていることなのだと思えます。

私の所属する教会には、若い世代の人たちがあまりいません。でも、高校生のときを振り返ると、周囲の友だちが心の奥で救いを求めていることを感じていました。どうしたら若い人たちが教会に足を向けてくれるのか、神学生仲間にも相談しながら、青年伝道に力を入れたいと思っています。

### 夏期伝道実習

大学院1年生

大橋 新



「香長伝道圏」で習字を用いたゲームを行った。後列左端が大橋神学生

### 実習先の伝道の熱意が、 今も背中を押し続けてくれる。

私は学部4年生の夏期伝道実習で、「香長伝道圏」に派遣されました。ここは高知県と徳島県にまたがる13の教会が伝道協力をしているエリアで、複数の教会を廻りながら子どものキャンプに参加したり、家庭集会で献身の証しをお話ししたり、スケジュールはもりだくさん。説教は、同じテーマの説教を計7箇所の教会で行い、その都度牧師にアドバイスをいただいて改訂を重ねました。その結果、実習の最後に語った説教は、最初に準備したものとはまったくの別物になり、「ここまで深くなるのか」と自分でも驚きました。

そんな夏期伝道で感じたのは、なによりも「伝道することの楽しさ、喜び」です。それは、出会った先輩牧師の方々、教会員の皆さんの熱い伝道のスピリットに触れたからだだと思います。夏期伝で訪れた教会は、大きくても礼拝出席が20人ぐらい、小さいと5人ぐらいでしたが、それでも教会同士支え合い「香長伝道圏」全体で伝道するという機運がとても強いのが印象的でした。例えば、ある教会が伝道集会をするとなると、近隣の別教会の牧師たちも集まってチラシを配ります。また車で移動中、教会のない町を通りかかると牧師が「この町にいつか教会を建てたい。まずは家庭集会からはじめよう」といったビジョンをワクワクした様子で話されます。大学に戻ってからもその伝道の熱意に背中を押し続け、後期は授業や教会生活に、それまで以上に熱心に取り組みました。

私の夏期伝体験は一例にすぎません。楽しい毎日の中には、緊張したり、精神力、体力を使い果たすこともありましたが、でも、思い切って飛び込めば必ず「伝道の喜び」に触れることができます。これも神学生に与えられる大きな恵みだと思っています。

## 東神大生のプロフィール

幅広い年齢層、さまざまな背景をもった学生がともに学ぶことは東京神学大学の大きな特徴です。本学に入学を許された神学生のバックグラウンドをいくつかのデータから紹介します。

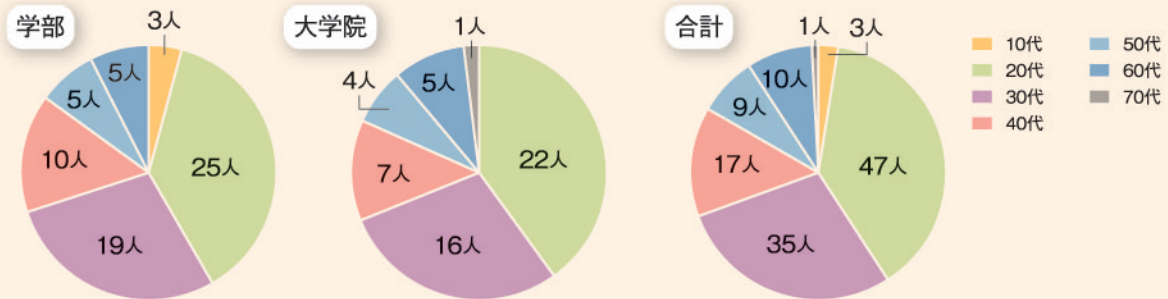
### ●男女比 直近5年間に在学した学生の平均男女比



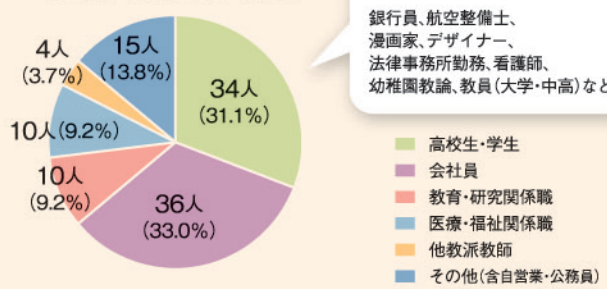
### ●入学時出身教会 2011年度在学生の東神大入学時の出身教会 (大学院博士課程後期課程在学者10名を除く)



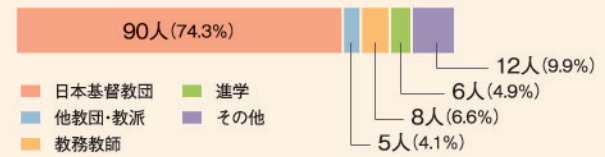
### ●年齢 2011年度在学生の年齢構成



### ●2011年度在学生の就職先



### ●卒業後の進路 直近5年間の修了生、卒業生(合計121名)の進路



## 東京神学大学の諸活動

**【公開夜間神学講座】** 1947年以来、信徒、役員、教会学校教師の教育のために、本学の教授を中心としたすぐれた講師陣による公開夜間神学講座が行われています。日本基督教団銀座教会にて、毎週月・金曜日に開講されています。

**【東京神学大学総合研究所】** 総合研究所は、日本伝道研究所とアジア伝道研究所から成る学術的な共同研究の拠点です。それぞれ講演会、セミナー、研修旅行などを実施しています。

**【刊行物】** 上記の総合研究所からは、研究論文や講演を載せた『紀要』が毎年刊行されます。その他、神学雑誌『神学』、東神大パンフレットなどを刊行しています。特に東神大パンフレットは、諸教会における信徒教育のテキストとしても広く用いられています。

**【後援会と献金】** 東京神学大学は、本学の特質を良くご理解くださる諸教会、教会員の方々の祈りと献金によって支えられている伝道者養成機関です。支援者の方々は、神学校と教会が車の両輪のように互いに支えあいながら歩めるよう、全国各地に後援会を組織して下さっています。講演会や献金に関するお問い合わせは、財務担当まで。  
献金先:郵便振替00150-5-5032

歴史的なキリスト教関連の品物を収蔵、保管することも、東京神学大学の重要な役割です。



### 編集者からのメッセージ

新しい『学校案内』をお届けいたします。この『学校案内』は東京神学大学を皆さんに知っていただきたいという切なる願いから作成されました。本学はキリスト教会の牧師、伝道者を養成する大学です。この『学校案内』をお手にとって、「私も神さまから呼び出され、招かれている」と感じていただけたら、とても嬉しく思います。伝道への志をお持ちの方は、どうぞお気軽に本学教務課入試係にご相談ください。また、本学をすでにお支えくださっている諸教会の皆様には引き続きご支援をお願いいたします。

2011年5月



# 東京神學大學

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30

TEL:0422-32-4185

FAX:0422-33-0667

E-mail [kyoumuka@tuts.ac.jp](mailto:kyoumuka@tuts.ac.jp)

URL <http://www.tuts.ac.jp/>

東京神学大学では毎年11月・2月・3月に入学試験を行います。ご質問や募集要項などの請求に関するお問い合わせは、東京神学大学教務課入試係まで。



- JR中央線 三鷹駅南口  
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」、「調布駅北口」、  
「武蔵小金井駅」いずれも「西野」下車 徒歩5分
- JR中央線 武蔵境南口  
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」  
3番乗り場より「狛江駅北口」  
4番乗り場より「吉祥寺駅」、いずれも「西野」下車 徒歩5分